

薄肉化の生分解性マルチによる効果確認



①試験品(ビオフィレックスマルチ)展張時5.12撮影



②現行品(キ工丸)展張時5.12撮影



③現行品(ナトゥーラ)展張時5.12撮影



④左:試験品(ビオフィレックス)右:現行品(ナトゥーラ)展張時5.12撮影



⑤全景(各種鋤込み後)9.9撮影

試験目的

薄肉化の生分解性マルチによる効果確認

試験作物及び品種

スイートコーン(キャンベラ)

試験資材及び数量(規格)

ビオフィレックスマルチ(0.016mm×95cm×200m 透明)

慣行資材

キ工丸(0.018mm×95cm×200m 透明)
ナトゥーラ(0.016mm×95cm×200m 透明)

栽培方法

播種日	収穫日	【栽植密度】 畝幅：130 cm 株間：33 cm
慣行区：4月28日 試験区：4月28日	慣行区：8月25日 試験区：8月25日	

資材使用期間

4月27日～9月2日

試験区面積

570㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

- ・展張時：問題なかった。他資材と同様のテンション、スピードで展張できた。
- ・栽培中：問題なかった。風や雨の影響も他資材と同等で問題なかった。
- ・収穫時：問題なかった。分解速度、マルチ残渣において問題なかった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

問題なかった。薄肉化品は、保湿や強度の面で不安視していたが、生育状況、収穫後の作物の状態から問題ないと言える。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

- 【優位点】：薄肉化することで、コストが下がることが良い。温度・湿度も問題なかった。
- 【問題点】：今年は問題なかったが、強風等で破損する等の懸念はある。特にキ工丸については伸びがあるため、孔から入る風によりマルチがバタつく。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

- ・分解の速度は、慣行と変わらない。
- ・マルチが伸びやすい順番は、キ工丸>ビオフィレックスマルチ>ナトゥーラであった。展張作業は伸びが大事だと思われるが展張後はバタつく為、適度な伸びがあると良い。

(5)促成・抑制効果について

生育状況に差が見られなかった。

(6)保温効果について

全品目同等であり問題なかった。

(7)雑草・病害虫の発生について

場所により雑草繁茂の程度に差はあるが、総じて3種とも差はなかった。
場所による差は、日蔭などの日光によるものと考えられる。

モニター感想

マルチとしての防草効果は出穂時期(40～45日目)迄あれば問題ない。

45日目以降は、雑草がマルチを持ち上げ破ってくれた方が良い。それは雨が入り実が大きくなるため、そういった分解速度をある程度調整できるようなマルチがあれば良いと思う。

JA担当者の感想(生産資材課 横市 氏)

薄肉化することでコストダウンを図れることが良い。最近の生分解性マルチは、どのメーカーも薄肉化が進んでおり、一般化してきている。更にコストダウンに向けたマルチも必要だが、ユーザー側で分解速度をある程度調整できるようなマルチがあれば、作物の品質や収量が向上できると思う。今後は、生分解性マルチの機能を向上してほしい。

今後の使用について

継続して使用したい。

将来希望する資材について

分解速度を調整するマルチ。

1 クリント

2 高温対策

3 害虫忌避効果

4 生分解性マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 その他